

第1学年生活科学学習活動案

日時 平成16年12月7日(火) 5校時
児童 男子14名 女子14名 計28名
指導者 T1 菅原和香子
T2 三浦知子
場所 金ヶ崎町立第一小学校体育館

1 単元名 「いえでもたのしみたいね」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活することができるようにする。」を受けて設定した。

子どもにとって身近な人と言えば家族である。会話や日記の中に、家族のことや家庭生活であった出来事を楽しそうに話題にしている。しかし子どもの家庭を見ると、父母ともに勤めに出ている家庭がほとんどで、家族のふれあいの時間を確保することが難しく、それぞれの仕事の様子をとらえている児童は少ない。

そこで、自分も家族の一員であるという気持ちを持ち、家庭生活の中で家族でやってみると楽しいことや家族も喜んでくれることがあることに気付き、家族のあたたかさを感じながら、主体的に関わる活動を大切にしていきたいと考えた。

そのためには、家族のつながりを大切に、一人ひとりの立場でしっかり理解させ、楽しく明るい家庭にするために、身近な人達と親しみを持って接することのできる児童に育てていくことがポイントである。

(2) 児童について

輪番であたる日直・給食当番、一人一役で取り組んでいる係では、仕事にすっかり慣れて意欲的に活動している姿が多く見られる。給食の配膳は、一学期は教師がつきっきりで仕事を教えていたが、少しずつ任せられるようになってきたし、それぞれの係の仕事はほとんど忘れることなく活動できている。

家で経験のあるお手伝いについては、次の通りである。

【家で経験のあるお手伝い】

- 洗濯物をたたむ ・お風呂そうじ ・洗濯 ・洗濯物を干した
- テーブルふき ・そうじ ・モップがけ ・掃除機かけ ・窓拭き
- ズック洗い ・ゴミ捨て ・布団しき ・電話番 ・料理 ・食器洗い
- 米とぎ ・草取り ・郵便、新聞をとる ・稲を乾かす ・花、ペットの世話
- 弟妹の世話 ・靴並べ ・肩もみ ・買い物

家での手伝いの経験はあるが、継続して行っているかどうかについては夏期休業中の点検では個人差が見られた。

(3) 指導について

つかむ段階では、家族の似顔絵を描かせることで活動への誘いとしてほしい。

深める段階では、自分の家族のよさ(得意なこと・好きなこと・尊敬できること等)や家族の楽しみ(家族自身が楽しみにしていること・子ども自身が家族と一緒に活動することで楽しいと感じていること等)について考えたり、家族に取材したりして、自分の家族について振り返る。その際、自分の考えたことや思ったことを明確にしてから取材できるように、ワークシートを活用したい。次に、家族の一日の生活についてまとめることにより、一日の流れに目を向けさせ、保護者の仕事の内容がかかっていることに気づかせる。そして、家族の一員として自分にできる仕事や、すでに行なっている仕事について、冬休み中に継続して行なえるように、お手伝いについて扱う。仕事名人として保護者を招き、学校で毎日している、「運動着を上手にたたもう。」の活動を行なう。

広げる段階では、冬休み中に継続してお手伝いを行い、自分の役割がわかって家族との生活を楽しく過ごすようにしたい。

3 単元の目標

(1) 主目標

家庭生活を支えている家族のことや自分でできるようになったことなどについて考え、自分の役割を積極的に果たそうとする意欲を育てる。

(2) 単元の評価規準

- | | |
|------------|---|
| 〔関心・意欲・態度〕 | ・自分が知っている家族について、積極的に発表しようとする。
・自分でできることを積極的に続けようとする。 |
| 〔思考・表現〕 | ・自分の家族のよさや楽しみなどを、絵などに表現する。
・家族の一員として行っている仕事やこれから挑戦していきたい仕事について、自分なりの方法で発表することができる。 |
| 〔気づき〕 | ・自分の家族の1日の様子を発表することを通して、家族の役割や、生活にはリズムがあることに気づいている。 |

4 活動の全体構想(全 12 時間)

段階	予想される主な活動の流れ	他教科・他領域との関連
<p>気 づ く / 活 動 す る</p> <p>/ ま と め る</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <h2 style="margin: 0;">いえでもたのしみたいね</h2> </div> <p>1 かぞくしょうかい(2 時間) 家族の似顔絵と仕事などを書く。 家族の特徴をうまくつかんで、絵や文に書く。 家族の役割分担がわかる。 家族のことについて話す。 家族は協力し合って生活していることが分かる。 自分も家族の一員であることが分かる。</p> <p>2 かぞくのたのしみ(3 時間) 家族のよさや家族との楽しみについて話す。 自分が感じる家族のよさや楽しみを絵などに表現する。 家族のよさや楽しみについて、家族に聞くためのメモを作る。 取材してわかったことを表現する。</p> <p>3 みんなの 1 日(2 時間) 自分の一日に生活を振り返る。 家族の一日の生活についてまとめる。</p> <p>4 仕事名人になろう(5 時間) 自分の家庭生活の中で、家族の仕事名人のことについて話す。 自分ができるお手伝いを、仕事名人に教えてもらう。 洗濯物たたみ、机の整理整頓などを行う。 冬休みのくらしについて、自分でもできる仕事がないか考える。 家族に、続けて行ってきたことについての感想を書いて伝える。 自分のしている仕事についての感想や、家族からの手紙を友達に見せ紹介する。</p>	<p>国語 「すきなものをしらせるね」 イ 書くものについて観察し、その特徴などの材料を集める。</p> <p>図工 「たのしかったことをかみはんがで」友達や家族との思い出を紙版画に表す。</p> <p>道徳 「おかあさん おめでとう」 「おじいちゃん りょこう」 「おとうさんの カレーライス」 「自分のために はたらこう」</p>

6 本時の指導

(1) 活動のねらい

- ・仕事名人に運動着たたみを教えてもらうことにより、じぶんでできるお手伝いに挑戦しようとする。

(2) 本時の活動構想

子どもたちは、これまでに家族や自分の生活を振り返ることにより、規則正しく健康に気をつけて生活しようとする関心が高まってきている。その上で、家族の一員としてできることを継続して行う気持ちを持たせる活動をする。

保護者をゲストティーチャーとして招き、学校生活で毎日行っている「着替えをしたものをたたむ」活動をしたい。たたむ活動は二度行う。普段のたたみ方と比べて、コンパクトにたたんでいる名人のものをを見て、(すごいなあ。)という驚きの気持ちを与えたい。どうすればそのようにたためるのか話し合いをした上で再度たたませる。

評価に関わっては、「ふりかえる」段階で、たたんだものを見合う時間を設定する。友達との関わりあいの中でいろいろな良さや工夫を見つけ、自分も取り入れようとする気持ちを持たせたい。また、お互いに認め合うことで自分の良さにも気づかせたい。

(3) 本時の展開

段階	学習内容と学習活動		支援・評価とその方法 評価 支援
つ か む 3 活 動 す る 27 ふ り か え る 15	1 前時想起をする。 2 本時のめあてを確認する。 3 運動着 上着 を出して比べる。 4 講師から運動着たたみを教わり、たたんでみる。 5 うまくたたむためのポイントを確認する。 6 ズボン、ハンカチをたたむ。 7 本時の振り返りをする。 8 次時の活動の確認をする。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">うんどうぎたたみめいじんになろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・運動着袋から上着を出してみ、仕事名人が出したものと比べてみる。 ・仕事名人の秘密を見つけてたたんでみる。 ・ズボン、ハンカチをたたんでみる。 ・友達のたたみ方を見合い、よさに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの活動を振り返り、運動着をたたむことを確認する。 ・講師として後藤さんを紹介する。 <p>励ましたり、仕事名人の作業を参考にして取り組むよう声かけをしたりする。</p> <p>仕事名人から教えてもらうことにより、自分でお手伝い挑戦しようとする。(行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のたたみ方を見合う時間を設定する。 ・本時の活動を振り返り、がんばったこと、友達の良かったことを言わせる。 ・冬休み中にも自分でできる仕事がないか考える。